

＜調査結果報告 概要版＞

津島市第 10 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定にむけた
アンケート調査結果について

＜調査の概要＞

本調査は、「津島市第 10 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたっての基礎資料として、また、今後の高齢者の福祉行政の基礎資料として、介護保険サービスの利用状況・利用意向や高齢者の生活実態、福祉をはじめとする各種施策の利用意向、意見・要望等を把握する目的で実施した。

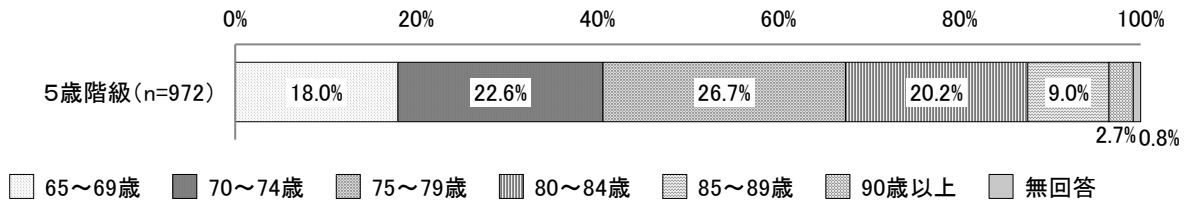
	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	在宅介護実態調査	法人調査
調査地域	津島市全域		
調査対象	津島市に居住する 65 歳以上の者のうち、要介護認定を受けていない者、要支援 1・2 と認定された者及び事業対象者	津島市に居住する 65 歳以上の者のうち、要介護認定を受けている者	津島市内にある介護保険事業所を有する法人
サンプル数	1,500 人	855 人	46 法人
有効回収数 (有効回収率)	972 (64.8%)	427 (49.9%)	29 (63.0%)
抽出方法	無作為抽出	全数	
調査方法	郵送配布・郵送回収		
調査時期	令和 7 年 11～12 月		

1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

①基本属性

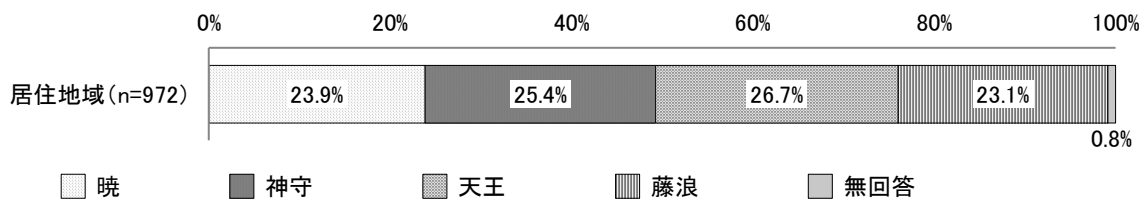
年齢

5歳階級では「75～79歳」が26.7%でもっとも割合が高く、次いで「70～74歳」が22.6%、「80～84歳」が20.2%となっている。



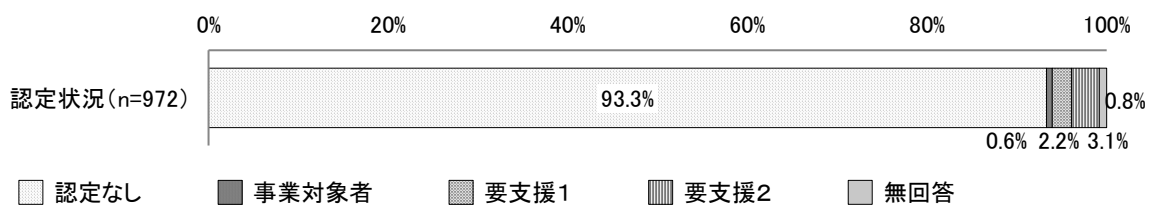
居住地域

各地域が25%前後で概ね等しくなっている。日常生活圏域としては「暁・神守」と「天王・藤浪」で概ね50%ずつになっている。



要介護認定等の状況

認定状況を2区分で見ると、「認定なし」が93.3%、「要支援者等」が5.9%となっている。



就労状態

「引退した」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。「常勤(フルタイム)」、「非常勤(パート・アルバイト等)」、「自営業」を合算すると 30.0%となっている。

年齢別にみると、「常勤(フルタイム)」、「非常勤(パート・アルバイト等)」、「自営業」を合算した割合は、65～74 歳で 46.0%、75～84 歳で 20.6%、85 歳以上で 11.5%となっている。

	件数	職に就いたことがない	引退した	常勤(フルタイム)	非常勤(パート・アルバイト等)	自営業	休職中	その他	無回答	
全体	972	7.9	53.2	5.6	17.1	7.3	1.1	10.9	1.1	
性別	男	432	3.2	56.5	9.7	15.7	7.9	1.6	6.7	0.7
	女	532	11.7	50.6	2.3	18.0	7.0	0.8	14.3	1.5
年齢	65～74歳	395	5.1	43.0	11.9	27.3	6.8	1.0	7.1	0.3
	75～84歳	456	9.0	60.5	1.5	11.2	7.9	1.3	12.1	1.5
	85歳以上	113	13.3	59.3	0.0	4.4	7.1	0.9	19.5	2.7

パソコン・スマートフォンなどの利用状況

「メールや SNS(LINE 等)を使い、家族や友人・知人と連絡をとる」が 64.9%でもっとも割合が高く、次いで「ニュースを見たり、調べごとなどをする」が 61.5%、「動画サイト(YouTube 等)で関心のある動画を見る」が 33.2%となっている。一方で、「パソコンやスマートフォンを持っていない」と「パソコンやスマートフォンを持っているが、ほとんど使っていない」を合算すると 23.9%となっている。

男女別にみると、男性では「動画サイト(YouTube 等)で関心のある動画を見る」、「ネットショッピングをする」の割合が女性よりも高く、女性では「メールや SNS(LINE 等)を使い、家族や友人・知人と連絡をとる」の割合が男性よりも高くなっている。年齢別にみると、「パソコンやスマートフォンを持っていない」の割合は、65～74 歳で 3.5%、75～84 歳で 17.1%、85 歳以上で 32.7%となっている。

	件数	メールや SNS(LINE 等)を使い、家族や友人・知人と連絡をとる	ニュースを見たり、調べごとなどをする	動画サイト(YouTube 等)で関心のある動画を見る	ネットショッピングをする	パソコンやスマートフォンを持っているが、ほとんど使っていない	パソコンやスマートフォンを持っていない	無回答	
全体	972	64.9	61.5	33.2	18.3	10.5	13.4	4.6	
性別	男	432	57.9	63.2	39.8	23.8	13.4	11.1	5.3
	女	532	70.9	60.0	27.3	13.7	8.3	15.2	4.1
年齢	65～74歳	395	80.5	78.2	48.6	30.9	7.1	3.5	2.0
	75～84歳	456	59.0	54.2	24.6	10.5	12.9	17.1	5.5
	85歳以上	113	35.4	31.9	11.5	5.3	13.3	32.7	10.6

3年前と比べた健康状態

「変わっていない」が63.0%でもっとも割合が高く、次いで「悪くなっている」が33.2%、「よくなっている」が2.2%となっている。

外出頻度別にみると、外出頻度が多いほど「変わっていない」の割合が高く、「悪くなっている」の割合が低くなっている。

		件数	よくなっている	変わっていない	悪くなっている	無回答
全体		972	2.2	63.0	33.2	1.6
外出頻度	ほとんど外出しない	44	2.3	36.4	59.1	2.3
	週1回	114	0.9	53.5	43.0	2.6
	週2～4回	415	2.9	62.2	34.0	1.0
	週5回以上	393	1.5	70.0	26.5	2.0

②外出・社会参加の状況

外出頻度

「週2～4回」と「週5回以上」を合算すると83.1%となっている。一方で、「週1回」と「ほとんど外出しない」を合算すると16.2%となっている。

		件数	ほとんど外出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答
全体		972	4.5	11.7	42.7	40.4	0.6
年齢	65～74歳	395	2.3	6.3	38.5	52.7	0.3
	75～84歳	456	4.4	13.4	46.3	35.1	0.9
	85歳以上	113	12.4	23.9	44.2	18.6	0.9

外出を控えているか

「はい」が17.9%、「いいえ」が73.3%となっている。

前回調査と比較すると、外出を控えている人の割合が低くなっている。

	件数	はい	いいえ	無回答
今回(R7)	972	17.9	73.3	8.8
前回(R4)	958	24.9	66.0	9.1

外出を控えている理由

「足腰などの痛み」が56.9%でもっとも割合が高く、次いで「交通手段がない」が21.8%、「病気」が19.0%となっている。

年齢別にみると、75歳以上では「足腰などの痛み」、85歳以上では「交通手段がない」の割合が他の年齢よりも高くなっている。

	件数	病気	障がい（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障がい（聞こえの問題など）	目の障がい	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答	
全体	174	19.0	3.4	56.9	15.5	7.5	5.2	16.7	13.2	21.8	11.5	0.0	
年齢	65～74歳	45	26.7	8.9	46.7	11.1	8.9	8.9	15.6	13.3	8.9	15.6	0.0
	75～84歳	93	17.2	1.1	60.2	18.3	6.5	4.3	18.3	15.1	20.4	9.7	0.0
	85歳以上	36	13.9	2.8	61.1	13.9	8.3	2.8	13.9	8.3	41.7	11.1	0.0
地域	暁・神守	86	19.8	2.3	59.3	16.3	10.5	5.8	12.8	16.3	20.9	8.1	0.0
	天王・藤浪	88	18.2	4.5	54.5	14.8	4.5	4.5	20.5	10.2	22.7	14.8	0.0

おでかけタクシーの認知度

「知っているが、利用登録はしていない(対象ではない場合も含む)」が 37.4%でもっとも割合が高く、次いで「知らない」が 37.2%、「知っており、利用登録している」が 24.0%となっている。

なお、おでかけタクシーの対象者である 75 歳以上では「知っており、利用登録している」が 40.2%でもっとも割合が高く、次いで「知っているが、利用登録はしていない(対象ではない場合も含む)」が 34.6%、「知らない」が 23.7%となっている。

男女別にみると、男性では「知らない」の割合が高くなっている。また、年齢別にみると、85 歳以上では「知っており、登録している」の割合が 54.0%となっている。

	件数	知っており、利用登録している	知っているが、利用登録はしていない(対象ではない場合も含む)	知らない	無回答	
全体	972	24.0	37.4	37.2	1.3	
性別	男	432	15.3	37.0	47.0	0.7
	女	532	31.4	37.2	29.5	1.9
年齢	65～74歳	395	1.0	40.8	57.0	1.3
	75～84歳	456	36.8	37.5	24.8	0.9
	85歳以上	113	54.0	23.0	19.5	3.5
	参考:75歳以上	569	40.2	34.6	23.7	1.4

外出に関する課題

「特に課題はない(問題なく買い物等ができる)」が66.3%でもっとも割合が高く、次いで「歩くことに不安がある」が13.7%、「行くことはできるが、商品を持って帰ることなどが難しい」が10.0%となっている。

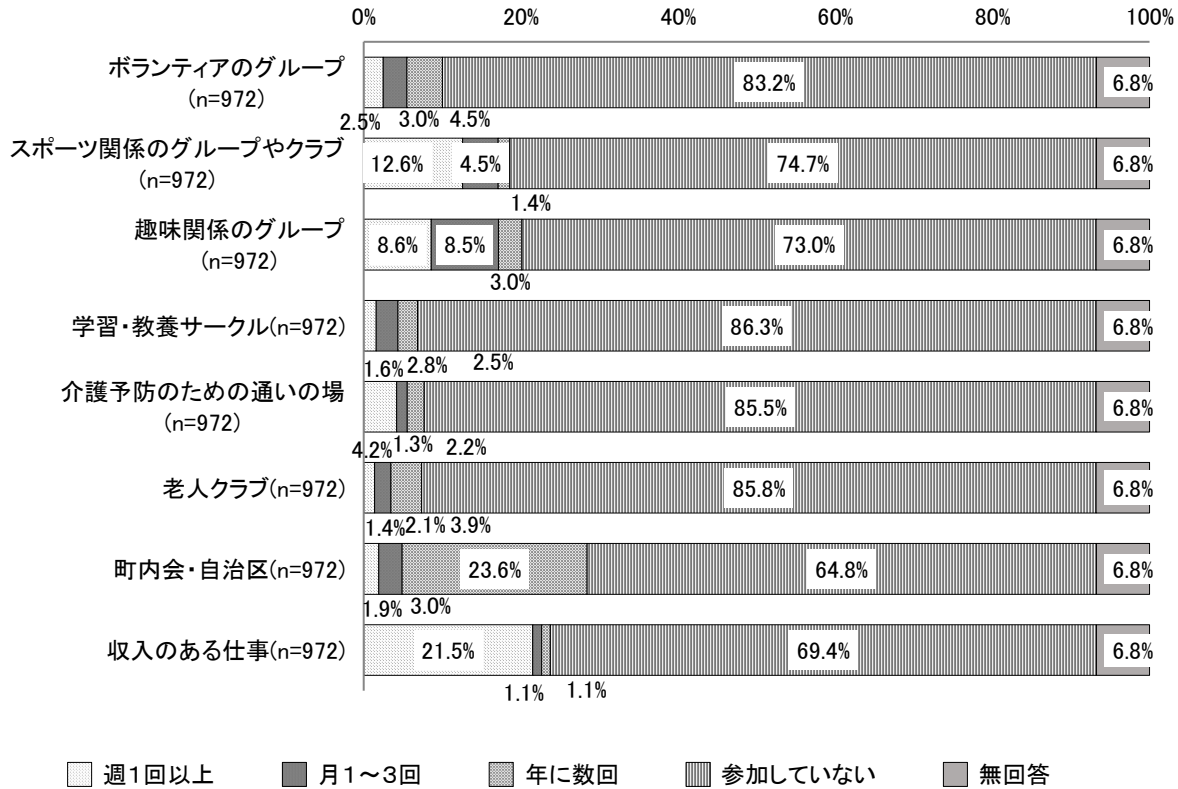
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「歩くことに不安がある」、「行くことはできるが、商品を持って帰ることなどが難しい」の割合が高くなっている。

	件数	歩くことに不安がある	トイレが心配	一人では、商品の選択、支払いが難しい	行くことはできるが、商品を持って帰ることなどが難しい	自動車の運転に不安がある	家族や知人に同行や送迎を頼みづらい	経済的な面からタクシーの利用は難しい	その他	特に課題はない(問題なく買い物等ができる)	無回答	
全体	972	13.7	8.0	2.1	10.0	5.0	4.5	6.6	2.6	66.3	2.6	
年齢	65～74歳	395	6.1	6.8	0.5	4.8	5.8	2.8	7.8	1.5	74.9	2.8
	75～84歳	456	16.4	9.0	2.9	11.8	4.8	4.6	5.7	2.9	65.1	1.8
	85歳以上	113	28.3	8.0	4.4	20.4	2.7	9.7	5.3	5.3	39.8	5.3

会・グループ等への参加状況

地域活動への参加状況について、「週1回以上」と「月1～3回」を合算すると、「収入のある仕事」が22.6%、「スポーツ関係のグループやクラブ」と「趣味関係のグループ」が17.1%で、その他は1割未満となっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「週1回以上社会参加あり」の割合が低くなっている。



		件数	週1回以上 社会参加あり	週1回以上 社会参加なし	無回答
全体		972	41.0	52.2	6.8
年齢	65～69歳	175	59.4	38.3	2.3
	70～74歳	220	49.1	45.5	5.5
	75～79歳	260	36.9	60.0	3.1
	80～84歳	196	29.6	60.2	10.2
	85～89歳	87	23.0	56.3	20.7
	90歳以上	26	30.8	53.8	15.4

■週1回以上社会参加ありの割合			
		今回 (R7)	前回 (R4)
全体		41.0	43.3
年齢	65～69歳	59.4	57.7
	70～74歳	49.1	50.2
	75～79歳	36.9	42.5
	80～84歳	29.6	26.7
	85～89歳	23.0	30.3
	90歳以上	30.8	33.3

※上記表の「週1回以上社会参加あり」の割合は、以下の基準により算出している。

「ボランティアのグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」「老人クラブ」「町内会・自治会」「収入のある仕事」のうち、①週1回以上参加しているものが1項目以上ある人、または、②月1～3回参加しているものが2項目以上ある人の割合

会・グループ等に参加していない理由

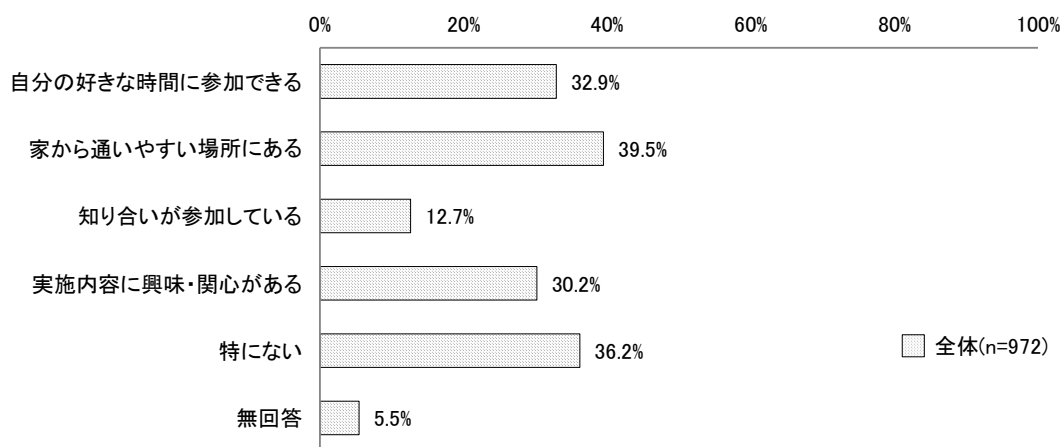
「多くの人が集まる場が苦手」が28.9%でもっとも割合が高く、次いで「会・グループ等の情報を知らない」が28.5%、「その他」が28.3%となっている。

年齢別にみると、85歳以上では「交通手段がない・距離が遠い」や「耳が遠く、他の人とコミュニケーションがとりづらい」の割合が他の年齢よりも高くなっている。世帯別にみると、1人暮らしでは「会・グループ等の情報を知らない」の割合が他の世帯よりも高くなっている。

	件数	仕事や家事などが忙しい	交通手段がない・距離が遠い	多くの人が集まる場が苦手	会・グループ等の情報を知らない	病気や障がいのため、参加が難しい	耳が遠く、他の人とコミュニケーションがとりづらい	その他	無回答	
全体	456	15.1	10.5	28.9	28.5	14.3	11.4	28.3	5.5	
性別	男	216	9.7	5.1	24.5	31.0	14.8	15.7	27.8	6.5
	女	237	20.3	15.6	32.9	26.2	13.1	7.6	28.3	4.6
年齢	65～74歳	157	21.7	5.7	35.0	30.6	13.4	7.6	28.7	2.5
	75～84歳	240	12.9	11.3	27.9	27.1	14.6	12.1	26.3	6.7
	85歳以上	56	7.1	21.4	16.1	28.6	12.5	19.6	33.9	8.9
世帯	1人暮らし	99	8.1	10.1	28.3	35.4	13.1	8.1	34.3	10.1
	高齢者のみ	169	17.8	8.9	27.2	29.6	13.6	11.8	28.4	4.7
	その他	168	17.3	12.5	30.4	21.4	16.1	13.7	25.0	3.6

住民が主体となって運営する場への参加意向

「家から通いやすい場所にある」が39.5%でもっとも割合が高く、次いで「自分の好きな時間に参加できる」が32.9%となっている。なお、「特にない」が36.2%となっている。



③ボランティアや地域活動の意向

地域づくり活動への参加意向

地域づくり活動への参加意向について、「既に参加している」、「是非参加したい」、「参加してもよい」を合算すると、「参加者として」は52.6%となっている。「企画・運営(お世話役)として」は28.8%となっている。

前回調査と比較すると、参加者と企画・運営ともに「参加してもよい」の割合がやや高くなっている。

	件数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
参加者	今回(R7)	972	4.6	43.9	42.8	4.1	4.5
	前回(R4)	958	5.0	41.0	45.7	3.0	5.2
企画・運営	今回(R7)	972	1.1	25.0	66.0	2.7	5.1
	前回(R4)	958	1.1	23.0	68.3	2.0	5.6

ボランティア活動への参加について

「参加したくない」が 59.2%でもっとも割合が高く、次いで「報酬がなくても、参加してみたい」が 21.6%、「多少の報酬があるなら、参加してみたい」が 12.6%となっている。

年齢別にみると、65～74 歳では「多少の報酬があるなら、参加してみたい」の割合が他の年齢よりも高くなっている。

		件数	多少の報酬があるなら、参加してみたい	報酬がなくても、参加してみたい	参加したくない	無回答
全体		972	12.6	21.6	59.2	6.7
性別	男	432	14.1	22.7	57.4	5.8
	女	532	11.5	20.1	60.9	7.5
年齢	65～74歳	395	22.0	18.7	55.9	3.3
	75～84歳	456	7.5	23.9	60.3	8.3
	85歳以上	113	0.9	19.5	67.3	12.4

参加したいボランティア活動の内容

「日常生活の手伝い(ゴミ出し、掃除、草むしり、電球替など)」が 28.0%でもっとも割合が高く、次いで「災害時の安否確認」が 26.5%、「地域での高齢者の会食や憩いの場づくり」が 24.4%、「高齢者を訪問し、見守りや話し相手をする」が 21.4%となっている。

年齢別にみると、65～74歳では「日常生活の手伝い(ゴミ出し、掃除、草むしり、電球替など)」や「病院や福祉施設での手伝いや話し相手をする」、75～84 歳では「高齢者を訪問し、見守りや話し相手をする」や「災害時の安否確認」の割合が他の年齢よりも高くなっている。

		件数	高齢者を訪問し、見守りや話し相手をする	日常生活の手伝い(ゴミ出し、掃除、草むしり、電球替など)	買物や通院など、外出の手伝い	病院や福祉施設での手伝いや話し相手をする	地域での高齢者の会食や憩いの場づくり	災害時の安否確認	その他	参加したくない	無回答
全体		332	21.4	28.0	18.7	17.2	24.4	26.5	7.8	9.6	4.5
性別	男	159	13.2	29.6	18.9	11.9	17.6	39.6	5.0	11.9	3.8
	女	168	29.8	26.8	18.5	22.6	30.4	13.7	8.9	7.7	5.4
年齢	65～74歳	161	18.6	32.9	23.0	24.8	21.7	21.1	6.2	13.0	3.1
	75～84歳	143	25.2	23.1	15.4	9.8	25.9	33.6	7.7	7.0	5.6
	85歳以上	23	21.7	26.1	8.7	13.0	30.4	17.4	8.7	4.3	8.7

④介護や市の施策等に対する考え方

かかりつけ医等の有無

かかりつけ医などについては、「いる」は「医師」で 80.0%、「歯科医師」で 63.0%、「薬剤師」で 40.7%となっている。

前回調査と比較すると、医師、歯科医師、薬剤師ともに「いる」の割合が高くなっている。

		件数	いる	いない	無回答
医師	今回(R7)	972	80.0	15.0	4.9
	前回(R4)	958	77.5	14.1	8.5
歯科医師	今回(R7)	972	63.0	21.9	15.1
	前回(R4)	958	58.7	22.1	19.2
薬剤師	今回(R7)	972	40.7	42.4	16.9
	前回(R4)	958	38.0	38.3	23.7

地域包括支援センターの認知度

「名前だけは知っている」が 39.9%でもっとも割合が高く、次いで「知らない」が 33.4%、「役割について知っている」が 22.2%となっている。

前回調査と比較すると、「役割について知っている」の割合が高くなっている。

	件数	役割について知っている	名前だけは知っている	知らない	無回答
今回(R7)	972	22.2	39.9	33.4	4.4
前回(R4)	958	17.2	40.2	35.0	7.6

人生会議の実施状況

「自分ひとりで考えている」が 34.9%でもっとも割合が高く、次いで「家族や周囲の人と話し合っている」が 29.7%、「関心があり、今後行ってみたい」が 21.0%となっている。

前回調査と比較すると、「自分ひとりで考えている」の割合がやや高くなり、「家族や周囲の人と話し合っている」の割合がやや低くなっている。

	件数	自分ひとりで考えている	家族や周囲の人と話し合っている	家族や周囲の人と話し合い、記録を残している	関心があり、今後行ってみたい	今後行うつもりはない	無回答
今回(R7)	972	34.9	29.7	1.4	21.0	5.8	7.2
前回(R4)	958	30.7	34.1	2.0	21.1	6.8	5.3

認知症の相談窓口を知っているか

「はい」が22.5%、「いいえ」が72.9%となっている。

地域別にみると、暁・神守では「はい」の割合が天王・藤浪よりも高くなっている。

		件数	はい	いいえ	無回答
全体		972	22.5	72.9	4.5
地域	暁・神守	479	25.5	70.4	4.2
	天王・藤浪	485	19.6	75.5	4.9

	件数	はい	いいえ	無回答
今回(R7)	972	22.5	72.9	4.5
前回(R4)	958	23.6	68.4	8.0

市の住みやすさに対する満足度

「とても満足している」と「満足している」を合算すると46.1%となっている。一方で、「不満である」と「あまり満足していない」を合算すると47.1%となっている。

前回調査と比較すると、「とても満足している」と「満足している」を合算した割合が高くなっている。

	件数	とても満足している	満足している	あまり満足していない	不満である	無回答
今回(R7)	972	1.6	44.5	41.4	5.7	6.8
前回(R4)	958	1.3	40.3	41.4	5.9	11.1

自身が受けたい介護

「できるかぎり自宅に住みながら介護サービスを利用したい」が45.8%でもっとも割合が高く、次いで「今のところ、よくわからない」が37.8%、「自宅以外の「介護施設」に入所して生活したい」が7.2%となっている。

	件数	できるかぎり自宅に住みながら介護サービスを利用したい	自宅以外の「介護施設」に入所して生活したい	自宅以外の「高齢者向けの住まい」に入居して生活したい	今のところ、よくわからない	無回答
今回(R7)	972	45.8	7.2	5.1	37.8	4.1
前回(R4)	958	42.3	12.2		42.2	3.3

※「自宅以外の「高齢者向けの住まい」に入居して生活したい」の選択肢は今回の調査で新たに追加した。

※「介護施設」とは介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院等の介護保険による施設サービスを指し、「高齢者向けの住まい」とはサービス付き高齢者住宅、住宅型有料老人ホーム等の住まいを指す。

最期を迎えたい場所

「自宅」が45.3%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が31.6%、「病院」が13.5%となっている。前回調査と比較すると、「自宅」の割合がやや低くなり、「わからない」の割合がやや高くなっている。

	件数	自宅	病院	介護施設	高齢者向けの住まい	わからない	その他	無回答
今回(R7)	972	45.3	13.5	2.7	1.0	31.6	0.7	5.2
前回(R4)	958	50.3	14.1	2.3		28.9	0.7	3.7

※「高齢者向けの住まい」の選択肢は今回の調査で新たに追加した。

※「介護施設」とは介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院等の介護保険による施設サービスを指し、「高齢者向けの住まい」とはサービス付き高齢者住宅、住宅型有料老人ホーム等の住まいを指す。

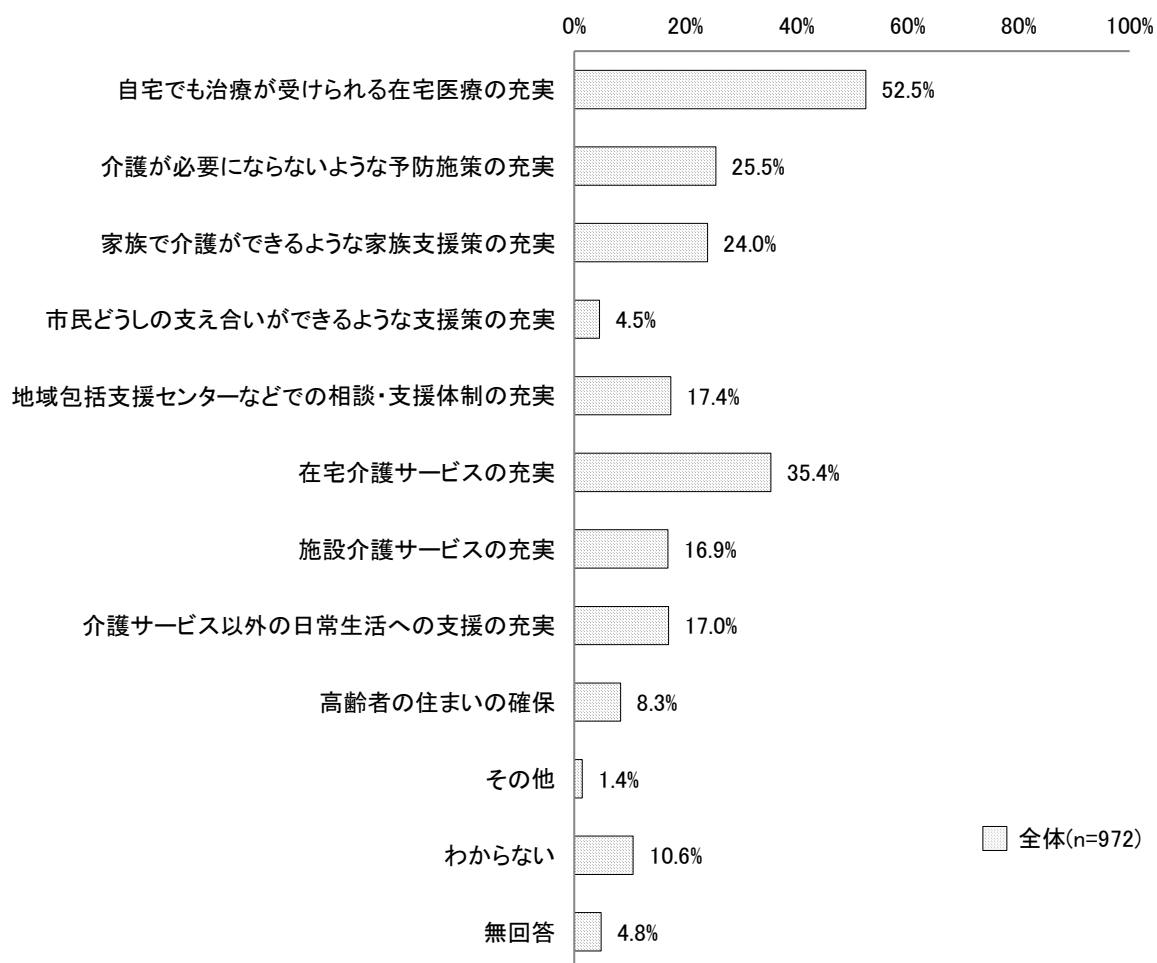
介護保険料と介護サービスのあり方についての考え方

「どちらとも言えない」が49.5%でもっとも割合が高く、次いで「給付される介護サービスを多少抑えても、介護保険料は低い方がよい」が23.9%、「介護保険料が多少高くなっても、給付される介護サービスが充実できればよい」が21.1%となっている。

	件数	介護保険料が多少高くなっても、給付される介護サービスが充実できればよい	給付される介護サービスを多少抑えても、介護保険料は、低い方がよい	どちらとも言えない	無回答
今回(R7)	972	21.1	23.9	49.5	5.6
前回(R4)	958	19.0	24.5	51.1	5.3

市に望む介護体制の充実

「自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実」が52.5%でもっとも割合が高く、次いで「在宅介護サービスの充実」が35.4%、「介護が必要にならないような予防施策の充実」が25.5%となっている。



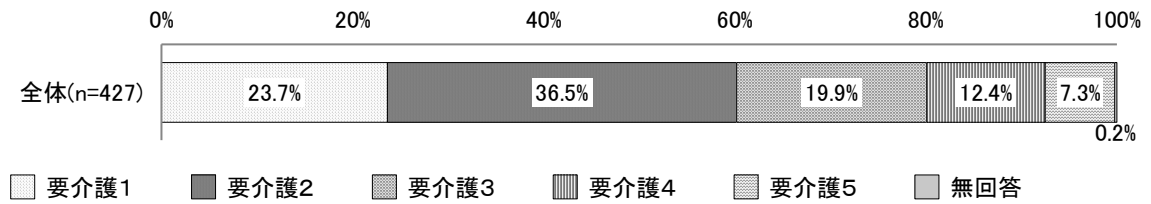
2 在宅介護実態調査

①基本属性

本人の要介護度

「要介護1」が 23.7%、「要介護2」が 36.5%、「要介護3」が 19.9%、「要介護4」が 12.4%、「要介護5」が 7.3%となっている。

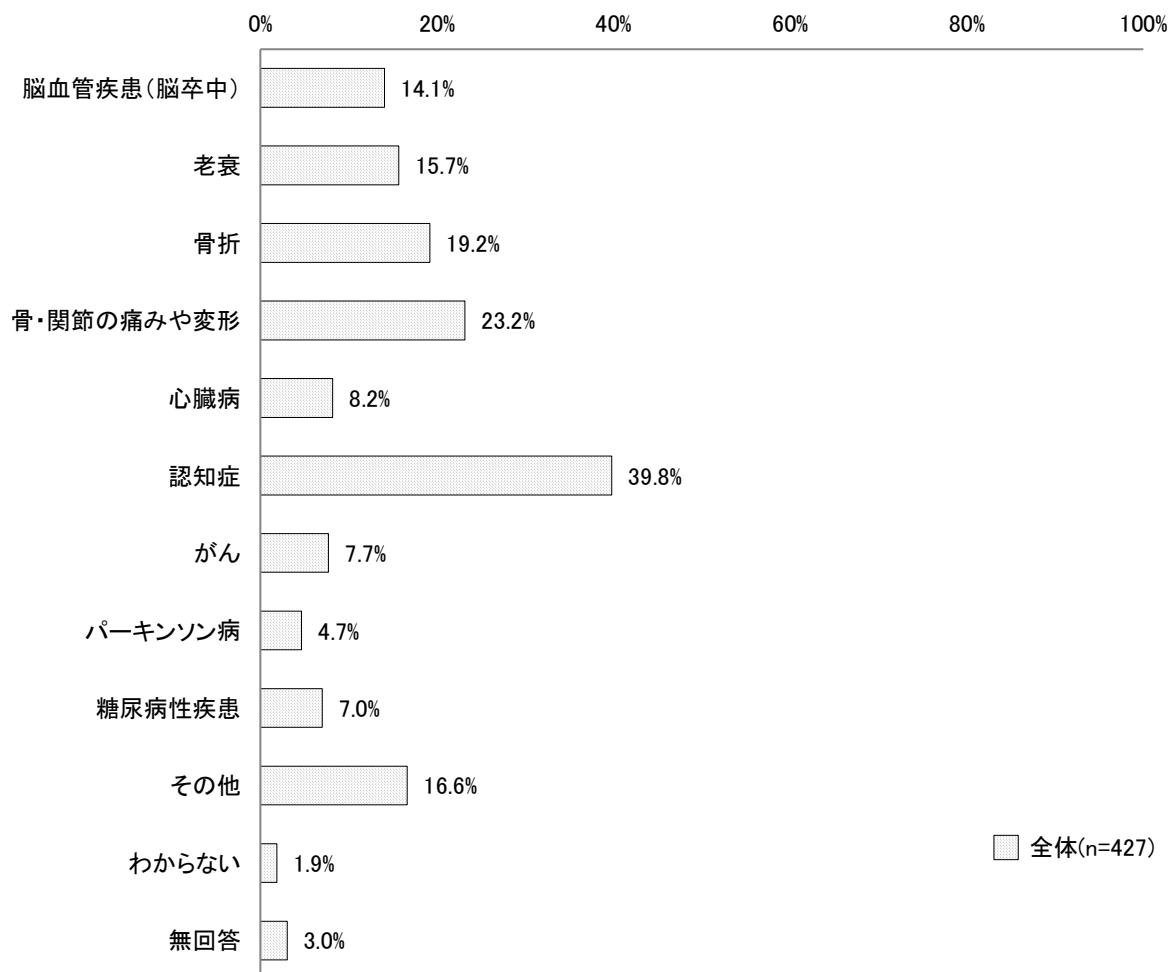
前回調査と比較すると、「要介護1」「要介護 2」の合計は前回よりも低く、「要介護 3」「要介護4」「要介護 5」の合計は前回よりも高くなっている。



	件数	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
今回(R7)	427	23.7	36.5	19.9	12.4	7.3	0.2
前回(R4)	413	28.3	37.5	16.5	11.9	4.6	1.2

介護が必要になった主な原因

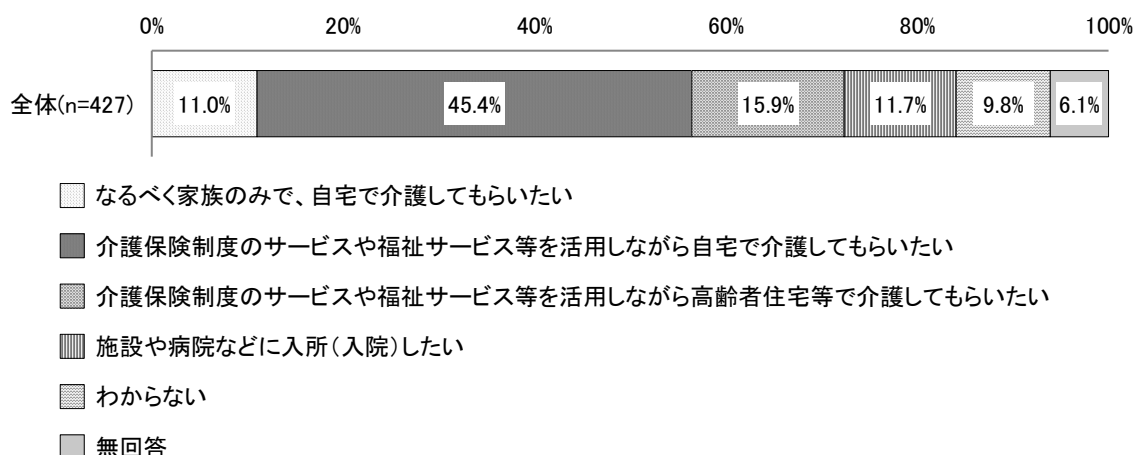
「認知症」が39.8%でもっとも割合が高く、次いで「骨・関節の痛みや変形」が23.2%、「骨折」が19.2%となっている。



②介護に対する意向等

今後受けたい介護

「介護保険制度のサービス(ホームヘルパー等)や福祉サービス等を活用しながら自宅で介護してもらいたい」が 45.4%でもっとも割合が高く、次いで「介護保険制度のサービス(ホームヘルパー等)や福祉サービス等を活用しながら高齢者住宅等で介護してもらいたい」が 15.9%、「施設や病院などに入所(入院)したい」が 11.7%となっている。



施設等への入所・入居の検討状況

「入所・入居は検討していない」が 54.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 21.5%、「入所・入居を検討している」が 19.7%となっている。

世帯別にみると、単身世帯で「すでに入所・入居申し込みをしている」が 33.9%となっている。

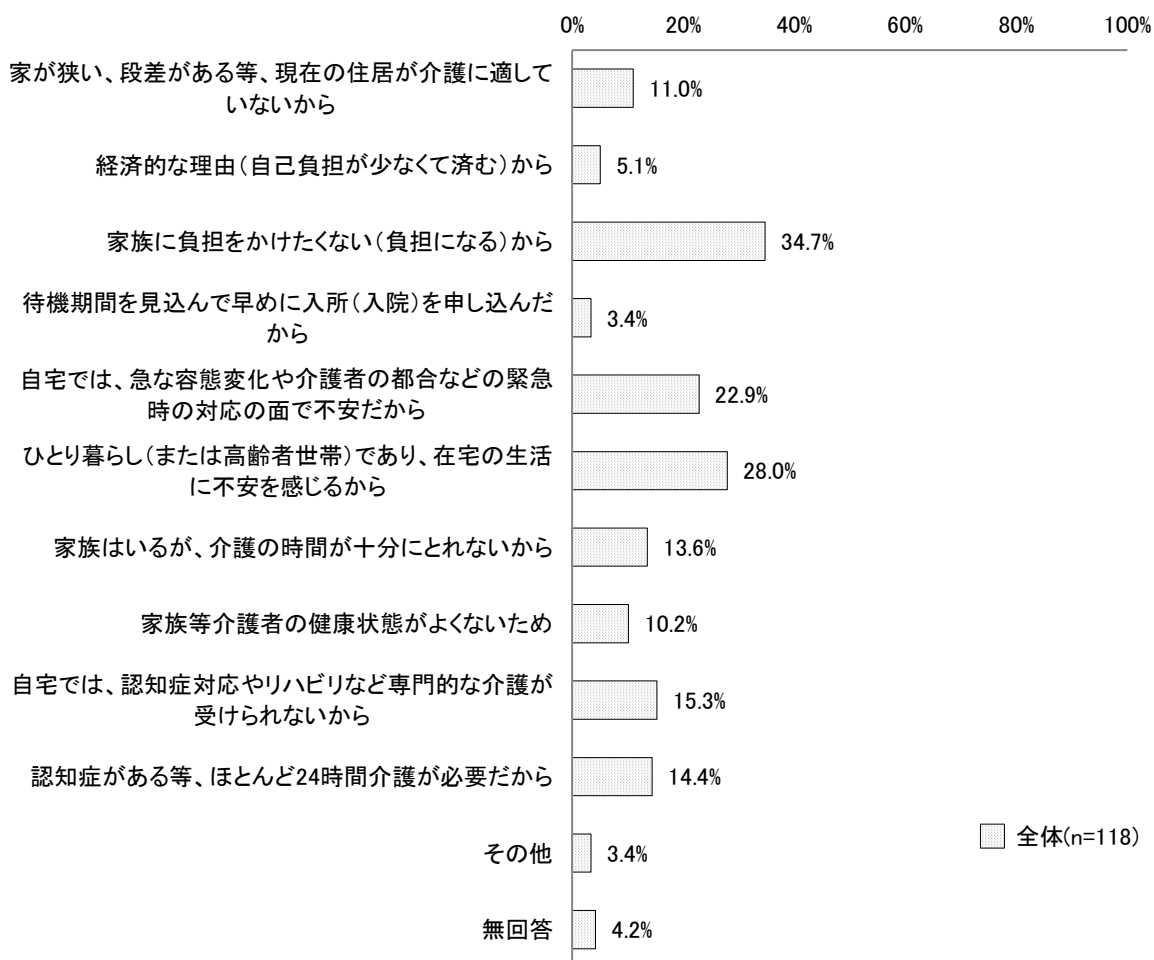
前回調査と比較すると、「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」が増加している。

		件数	入所・入居は検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
全体		427	54.6	19.7	21.5	4.2
世帯	単身世帯	109	46.8	17.4	33.9	1.8
	夫婦のみ世帯	119	61.3	21.8	13.4	3.4
	その他	185	54.1	20.0	20.5	5.4
認定	要介護1・2	257	60.7	23.7	10.5	5.1
	要介護3~5	169	45.6	13.0	38.5	3.0

		件数	入所・入居は検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
今回(R7)		427	54.6	19.7	21.5	4.2
前回(R4)		413	62.0	15.0	9.9	13.1

施設等に入所・入院したい理由

「家族に負担をかけたくない(負担になる)から」が34.7%でもっとも割合が高く、次いで「ひとり暮らし(または高齢者世帯)であり、在宅の生活に不安を感じるから」が28.0%、「自宅では、急な容態変化や介護者の都合などの緊急時の対応の面で不安だから」が22.9%となっている。

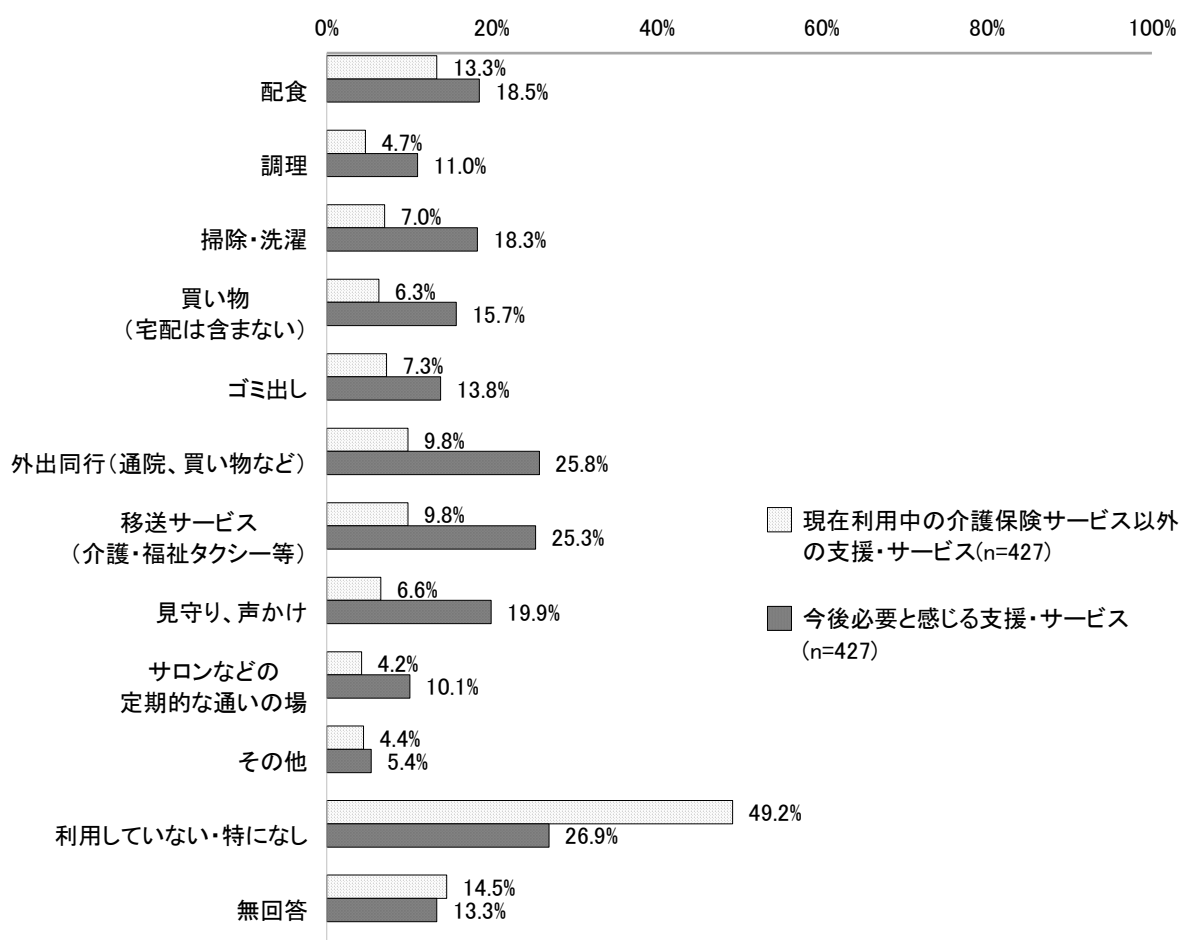


③在宅生活の継続に必要な支援等

介護保険サービス等以外のサービスの利用状況

現在利用中の介護保険サービス以外の支援・サービスについては、「配食」が13.3%でもっとも割合が高く、次いで、「外出同行(通院、買い物など)」「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が9.8%、「掃除・洗濯」が7.0%となっている。また、「利用していない」は49.2%となっている。

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては「外出同行(通院、買い物など)」が25.8%でもっとも割合が高く、次いで、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.3%、「見守り・声かけ」が19.9%となっている。また、「特になし」は26.9%となっている。



④主な介護者の状況(介護者への質問)

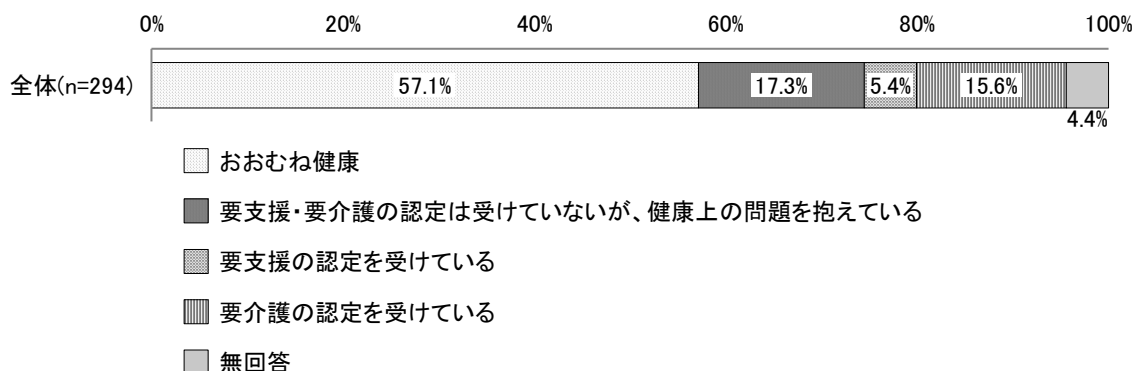
主な介護者の年齢

「60代」が36.7%でもっとも割合が高く、次いで「50代」が23.5%、「70代」が18.7%となっている。年齢別にみると、被介護者が85歳以上かつ介護者が80歳以上が12.9%となっている。

		件数	40代以下	50代	60代	70代	80代以上	わからない	無回答
全体		294	3.4	23.5	36.7	18.7	16.7	0.0	1.0
年齢	65～74歳	22	9.1	9.1	31.8	50.0	0.0	0.0	0.0
	75～84歳	101	2.0	34.7	4.0	30.7	26.7	0.0	2.0
	85歳以上	170	3.5	18.2	57.1	7.6	12.9	0.0	0.6
認定	要介護1・2	189	3.7	28.0	37.0	15.3	14.3	0.0	1.6
	要介護3～5	104	2.9	14.4	36.5	25.0	21.2	0.0	0.0
認知症	自立+I	58	5.2	12.1	34.5	25.9	19.0	0.0	3.4
	II	142	2.1	28.9	38.0	19.0	12.0	0.0	0.0
	III以上	92	4.3	21.7	37.0	14.1	21.7	0.0	1.1

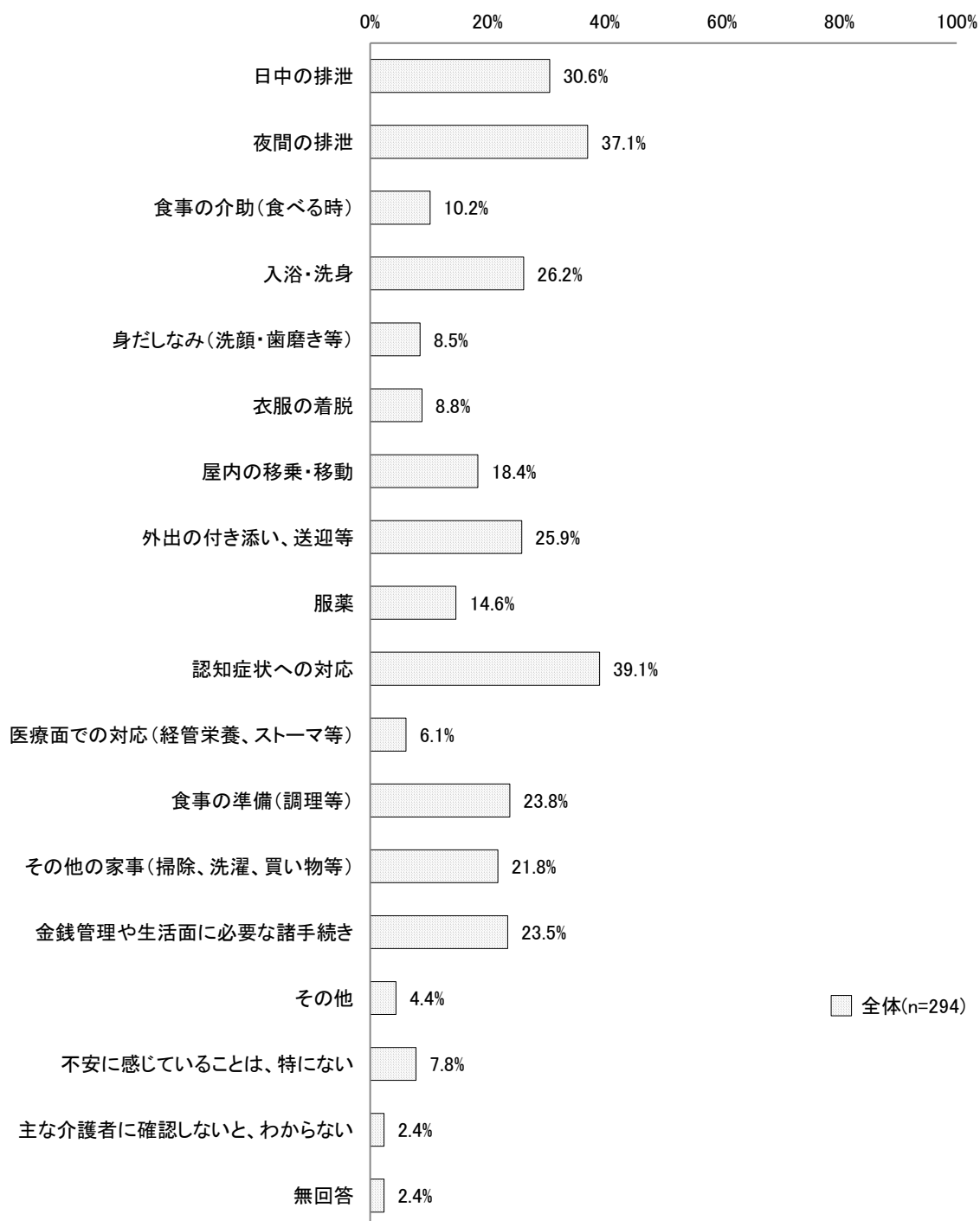
主な介護者の健康状態

「おおむね健康」が57.1%となっている。「要支援・要介護の認定は受けていないが、健康上の問題を抱えている」と「要支援の認定を受けている」と「要介護の認定を受けている」を合算すると38.3%となっている。



介護者が不安に感じる介護内容

「認知症状への対応」が39.1%でもっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.1%、「日中の排泄」が30.6%となっている。



介護を断念し、入所を検討する理由

「認知症等による問題行動が多くなったとき」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「排せつ(の介護)が難しくなったとき」が 60.2%、「夜間の介護負担が大きくなったとき」が 49.7%となっている。

	件数	食 べ る こ と (の 介 護) が 難 し く な っ た と き	排 せ つ (の 介 護) が 難 し く な っ た と き	室 内 の 移 動 (の 介 護) が 難 し く な っ た と き	複 雑 な 医 療 の 処 置 が 必 要 に な っ た と き	認 知 症 等 に よ る 問 題 行 動 が 多 く な っ た と き	夜 間 の 介 護 負 担 が 大 き く な っ た と き	大 き く な っ た と き (介 護 者 が 別 居 の 場 合) 介 護 者 の 通 い の 負 担 が	そ の 他	無 回 答	
全体	294	40.8	60.2	45.2	48.3	66.7	49.7	11.6	4.4	3.4	
認定	要介護1・2	189	42.3	63.0	49.2	54.5	74.6	51.9	12.7	3.2	2.6
	要介護3～5	104	37.5	55.8	38.5	37.5	52.9	46.2	9.6	6.7	4.8
認知症	自立+I	58	37.9	56.9	48.3	53.4	50.0	43.1	17.2	3.4	5.2
	II	142	42.3	66.2	50.0	51.4	74.6	54.2	10.6	4.2	1.4
	III以上	92	39.1	54.3	37.0	40.2	66.3	46.7	9.8	5.4	5.4

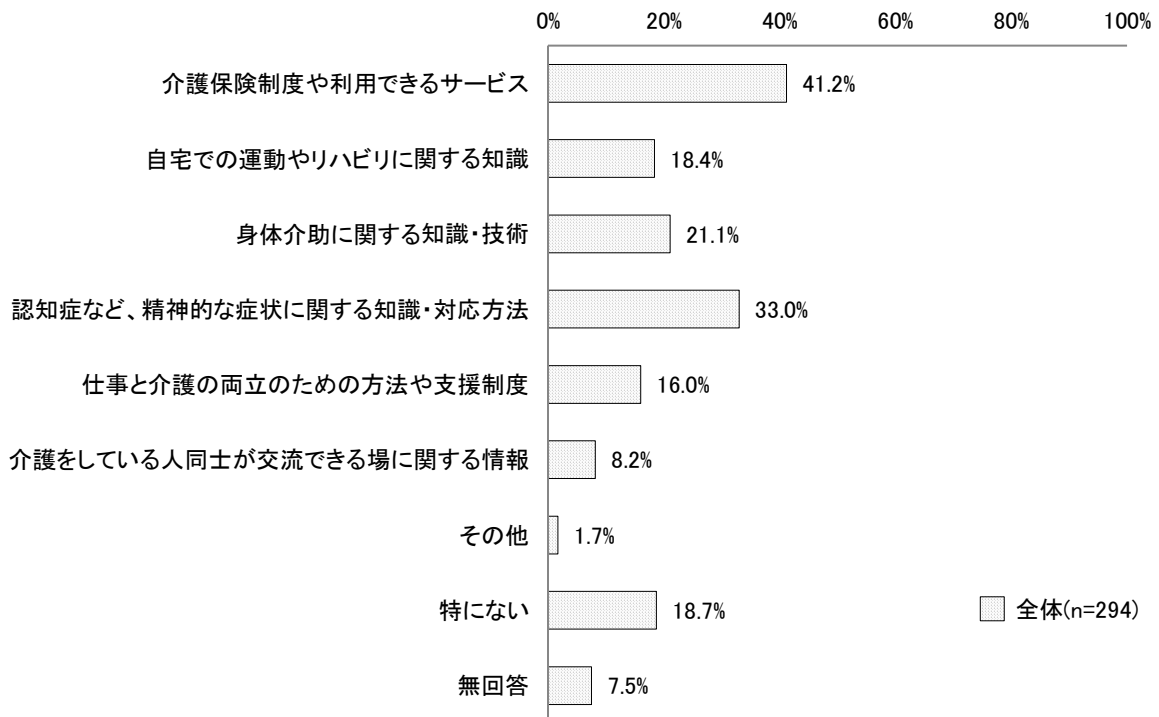
津島市の認知症施策の認知度

「認知症介護家族交流会」が 21.1%でもっとも割合が高く、次いで、「認知症カフェ」が 18.7%、「認知症高齢者等事前登録」「高齢者等見守りシール」が 14.3%となっている。また、「1つも知らない」は 44.6%となっている。

	件数	認 知 症 介 護 家 族 交 流 会	認 知 症 家 族 支 援 プ ロ グ ラ ム	認 知 症 初 期 集 中 支 援 チ ーム	認 知 症 カ フェ	認 知 症 サ ポ ー タ ー 養 成 講 座	つ し ま オ レ ン ジ サ ポ ー タ ー の 会	認 知 症 高 齢 者 等 事 前 登 録	高 齢 者 等 見 守 り シ ー ル	認 知 症 高 齢 者 等 個 人 賠 償 責 任 保 険	か え る ネ ッ ト つ し ま	1 つ も 知 ら な い	無 回 答
全体	294	21.1	6.5	5.1	18.7	10.2	6.8	14.3	14.3	5.8	8.2	44.6	14.3
認定	要介護1・2	189	20.1	6.9	5.3	20.1	9.5	4.8	12.2	12.2	5.3	45.0	11.6
	要介護3～5	104	23.1	5.8	4.8	16.3	11.5	10.6	18.3	18.3	6.7	43.3	19.2
認知症	自立+I	58	15.5	6.9	6.9	17.2	8.6	8.6	17.2	10.3	8.6	44.8	22.4
	II	142	19.7	6.3	5.6	16.9	10.6	5.6	9.2	12.0	4.2	48.6	9.2
	III以上	92	27.2	6.5	3.3	22.8	10.9	7.6	20.7	20.7	7.6	37.0	17.4

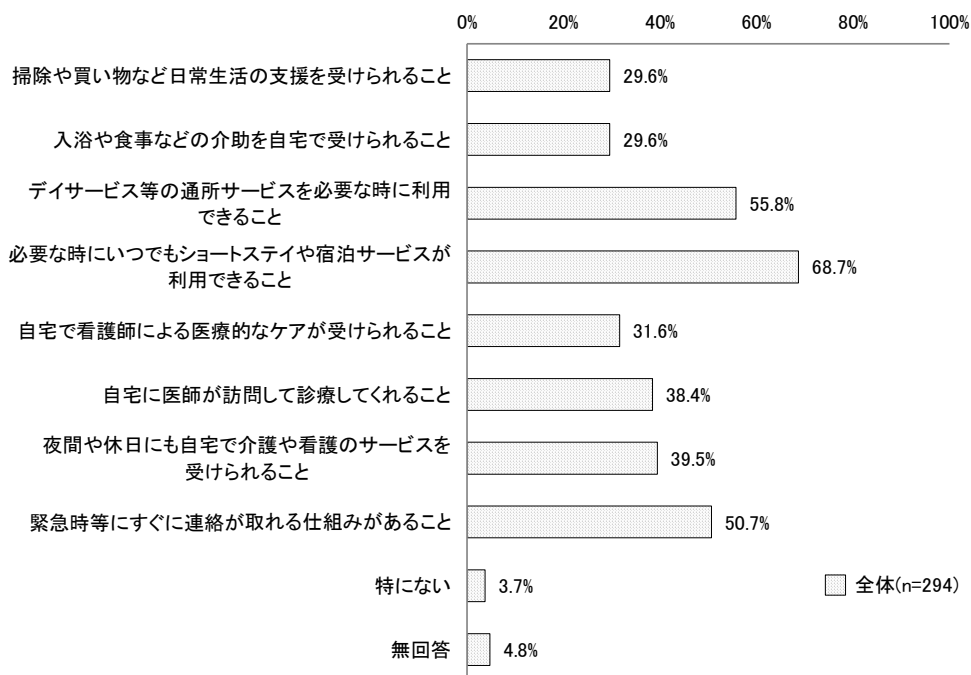
介護に関して知りたいこと

「介護保険制度や利用できるサービス」が 41.2%でもっとも割合が高く、次いで「認知症など、精神的な症状に関する知識・対応方法」が 33.0%、「身体介助に関する知識・技術」が 21.1%となっている。



自宅で暮らし続けるために必要な支援

「必要な時にいつでもショートステイや宿泊サービスが利用できること」が 68.7%でもっとも割合が高く、次いで「デイサービス等の通所サービスを必要な時に利用できること」が 55.8%、「緊急時等にすぐに連絡が取れる仕組みがあること」が 50.7%となっている。



⑤仕事と介護の両立(介護者への質問)

仕事と介護の両立について、今後の見込み

「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合算すると 83.5%となっている。一方で、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合算すると 10.8%となっている。

前回調査と比較すると、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」は増加している。

	件数	問題なく、 続けていける	問題はあるが、何とか 続けていける	続けていくのは、やや 難しい	続けていくのは、かなり 難しい	主な介護者に確認し ないと、わからない	無回答
今回(R7)	139	14.4	69.1	7.2	3.6	3.6	2.2
前回(R4)	108	13.0	60.2	13.0	6.5	1.9	5.6

介護を理由とした家族等の離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 65.0%でもっとも割合が高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が 5.8%、「わからない」が 3.7%となっている。

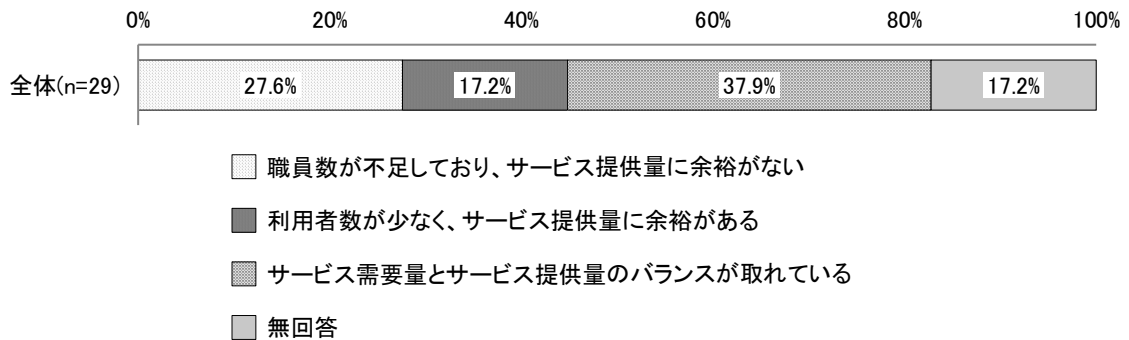
前回調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が増加している。

	件数	主な介護者が仕事を 辞めた(転職除く)	主な介護者以外の 家族・親族が仕事を 辞めた(転職除く)	主な介護者が転職し た	主な介護者以外の 家族・親族が転職した	介護のために仕事を 辞めた家族・親族は いない	わからない	無回答
今回(R7)	294	5.8	1.7	3.4	1.0	65.0	3.7	20.1
前回(R4)	283	9.9	1.8	3.5	0.7	56.2	4.9	24.0

3 法人調査

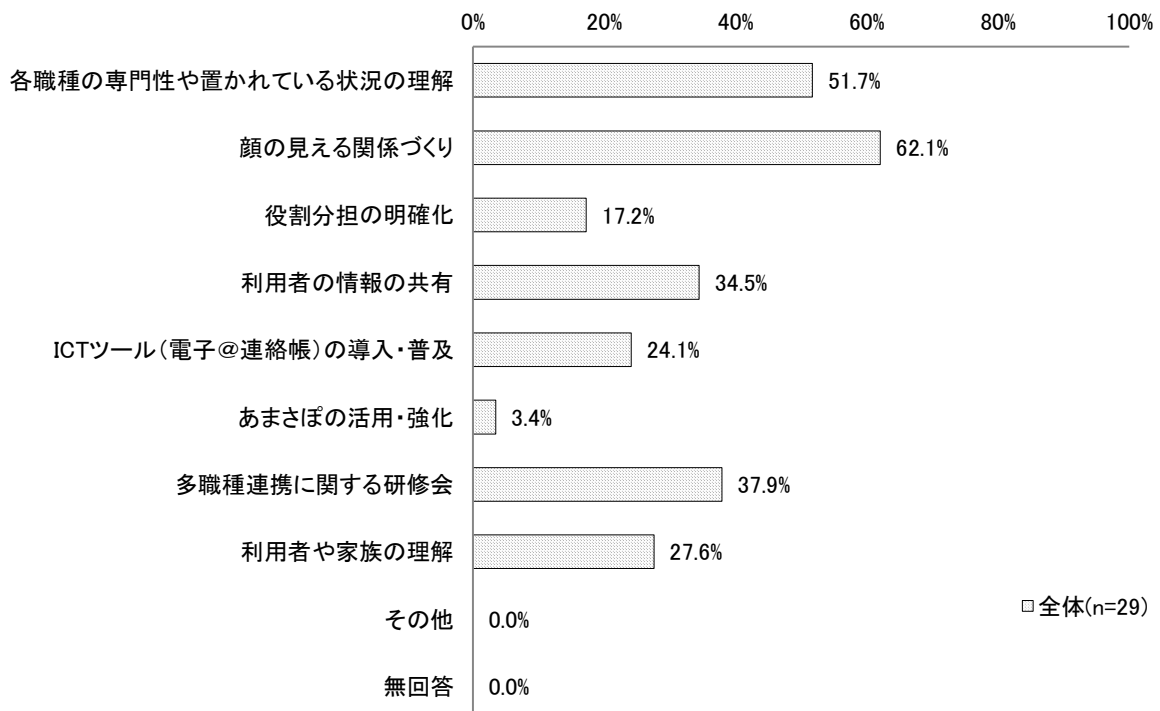
サービス提供の状況

「サービス需要量とサービス提供量のバランスが取れている」が 37.9%でもっとも割合が高く、次いで「職員数が不足しており、サービス提供量に余裕がない」が 27.6%、「利用者数が少なく、サービス提供量に余裕がある」が 17.2%となっている。



多職種の連携を進めるために必要なこと

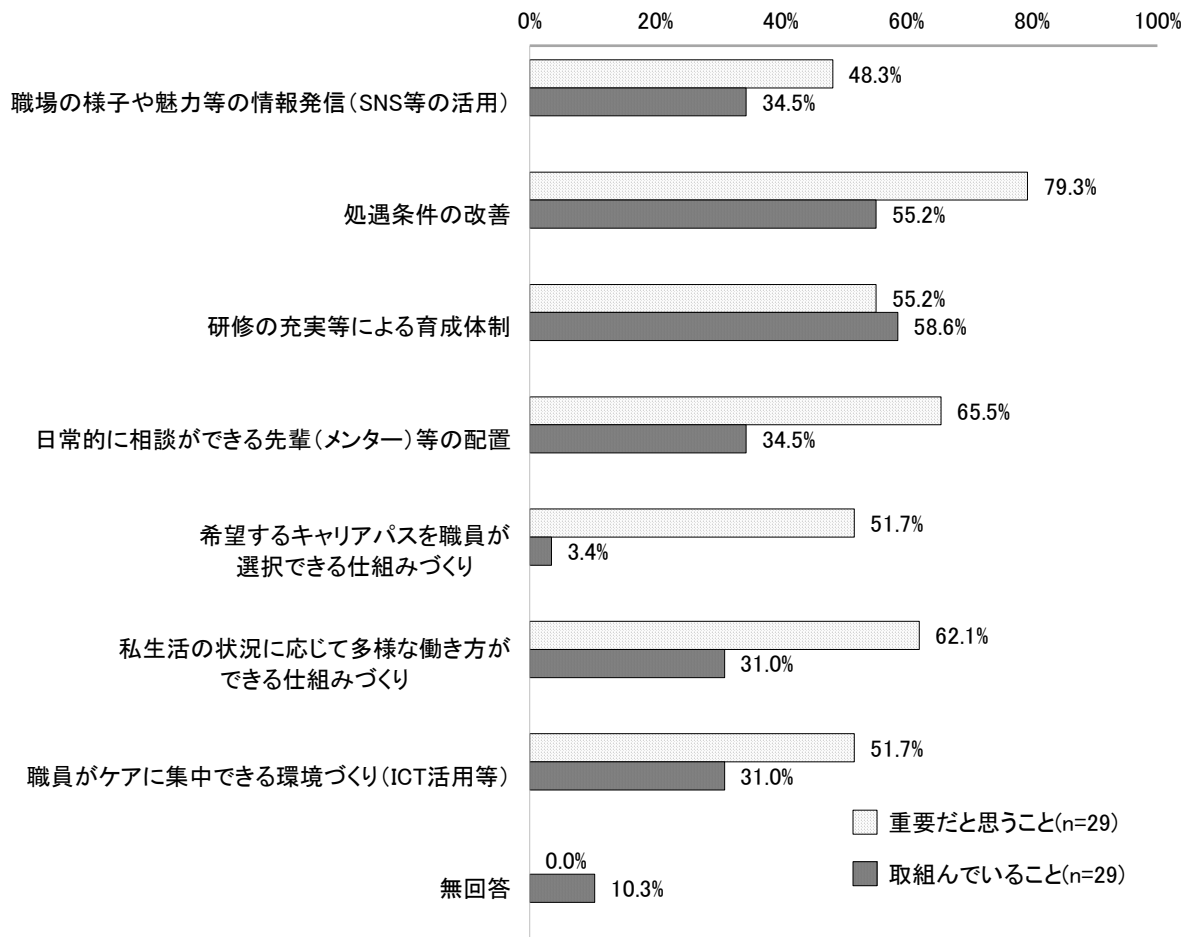
「顔の見える関係づくり」が 62.1%でもっとも割合が高く、次いで「各職種の専門性や置かれている状況の理解」が 51.7%、「多職種連携に関する研修会」が 37.9%となっている。



人材の確保・定着・育成に関する考えや取組

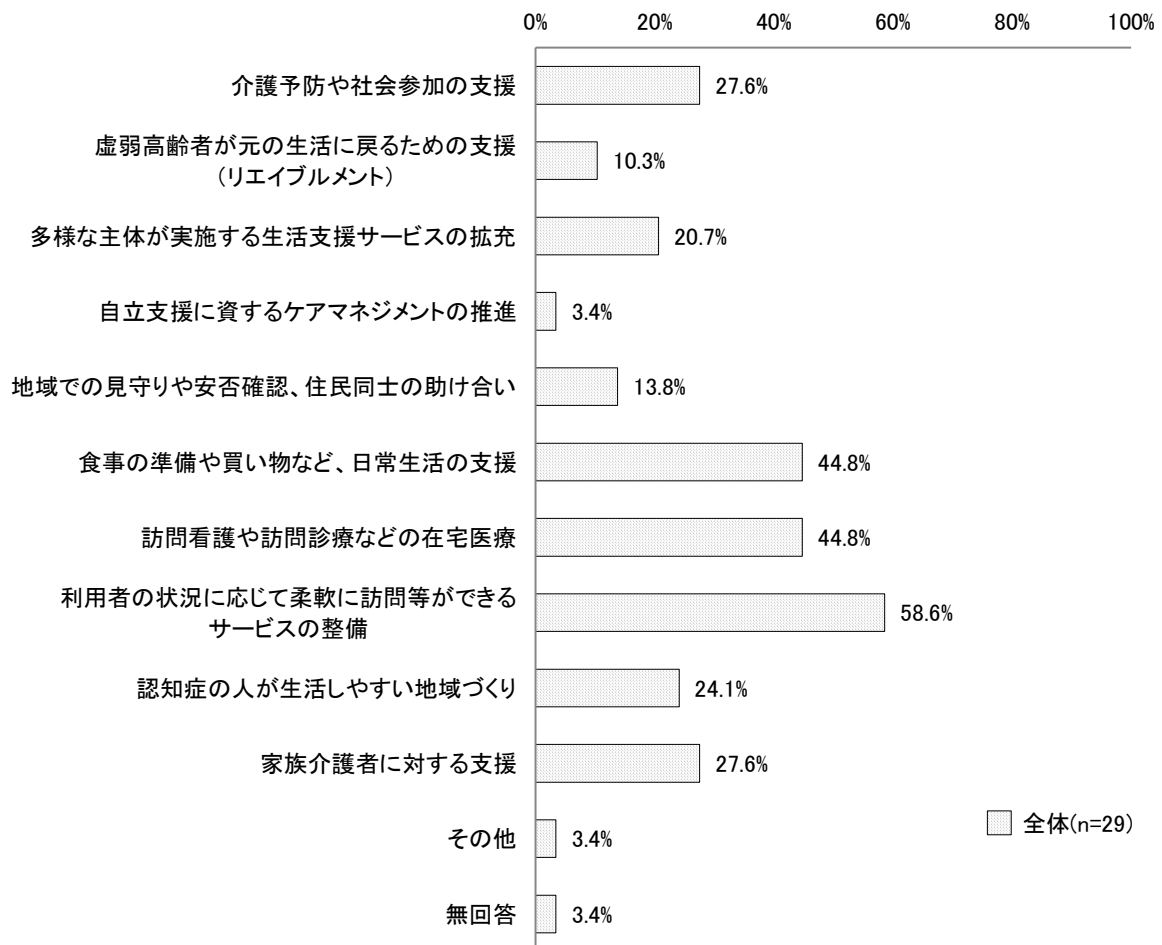
重要だと思うことについては、「処遇条件の改善」が79.3%でもっとも割合が高く、次いで「日常的に相談ができる先輩(メンター)等の配置」が65.5%、「私生活の状況に応じて多様な働き方ができる仕組みづくり」が62.1%となっている。

取組んでいることについては、「研修の充実等による育成体制」が58.6%でもっとも割合が高く、次いで「処遇条件の改善」が55.2%、「職場の様子や魅力等の情報発信(SNS等の活用)」「日常的に相談ができる先輩(メンター)等の配置」が34.5%となっている。



第 10 期計画期間で充実すべき内容

「利用者の状況に応じて柔軟に訪問等ができるサービスの整備」が 58.6%でもっとも割合が高く、次いで「食事の準備や買い物など、日常生活の支援」「訪問看護や訪問診療などの在宅医療」が 44.8%、「介護予防や社会参加の支援」「家族介護者に対する支援」が 27.6%となっている。



4 調査結果のまとめ

在宅生活の継続

○介護に対する意識

- ・ 一般高齢者の 45.8%が「できるかぎり自宅に住みながら介護サービスを利用したい」と回答し、前回調査から約4ポイント増加した。また、「自宅」で最期を迎えたいと考える人は 45.3%となっているが、前回調査よりも5ポイント減少した。
- ・ 要介護認定者においても、「なるべく家族のみで、自宅で介護してもらいたい」、「介護保険制度のサービス(ホームヘルパー等)や福祉サービス等を活用しながら自宅で介護してもらいたい」との回答が 56.4%であった。一方で、高齢者住宅や介護施設への入居・入所を望む回答が 27.6%であり、その理由としては、「家族に負担をかけたくない(負担になる)から」、「ひとり暮らし(または高齢者世帯)であり、在宅の生活に不安を感じるから」、「自宅では、急な容態変化や介護者の都合などの緊急時の対応の面で不安だから」の順に割合が高かった。

○介護者の状況

- ・ 要介護認定者の介護者のうち、35.4%が 70 歳以上であった。また、被介護者が 85 歳以上で介護者が 80 歳以上は 12.9%であった。介護者の健康状態について、「要支援・要介護の認定は受けていないが、健康上の問題を抱えている」、「要支援の認定を受けている」、「要介護の認定を受けている」を合算すると 38.3%であった。
- ・ 介護者が不安に感じる介護としては、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」の順に割合が高かった。また、介護を断念し、入所を検討する理由としては、「認知症等による問題行動が多くなったとき」、「排泄(の介護)がむずかしくなったとき」の順に割合が高かった。
- ・ 今後の就労について、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合算すると 10.8%であった。

○在宅生活の継続にむけて必要な支援

- ・ 一般高齢者が市に望む介護体制の充実内容は、「自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実」、「在宅介護サービスの充実」の順に割合が高かった。
- ・ 介護者が回答した在宅生活の継続に必要なサービスは、「必要な時にいつでもショートステイや宿泊サービスが利用できること」、「デイサービス等の通所サービスを必要な時に利用できること」の順に割合が高かった。

■調査結果の考察

- ・ 介護が必要になっても自宅で必要なサービスを利用しながら暮らし続けることを望む高齢者が多く、こうした在宅志向は前回よりも強まっている。一方で、家族の介護負担への配慮や急変時の不安などから、高齢者住宅や施設への入居・入所を検討する状況も確認された。
- ・ 介護者の高齢化が進み、介護者自身も健康上の問題を抱えているケースは今後も増加することが予測される。在宅介護を断念する理由として、認知症や排泄に係る介護などが多くなっている一方で、認知症家族介護支援プログラム等の認知度は低い水準にとどまっている。
- ・ 今後、介護が必要な高齢者が増加するなかで、高齢者の望む暮らしと介護者の不安・負担軽減を実現するためには、適切なアセスメントのもとで必要な介護保険サービスが提供される体制を確保するとともに、地域に根差した民間企業や民生委員と連携し、柔軟なサービスの利用につなげていく必要がある。

社会参加・介護予防

○外出・心身の状況

- ・ 外出頻度は年齢が上がるにつれて低下しており、85歳以上では「週1回以下」が36.3%であった。
- ・ 外出を控えている割合は、前回調査と比較して7ポイント減少した。また、外出を控えている理由は、年齢が上がるにつれて、「足腰などの痛み」や「交通手段がない」の割合が高かった。
- ・ 3年前と比べた健康状態は、外出頻度が多いほど「変わっていない」の割合が高く、「悪くなっている」の割合が低かった。
- ・ 就労している人の割合は、65～74歳で46.0%、75～84歳で20.6%、85歳以上で11.5%であった。高齢者の64.9%が「メールやSNSを使い、家族や友人・知人と連絡をとる」と回答しており、85歳以上に限定しても3割を超えていた。

○活動への参加意向

- ・ 地域づくり活動に参加している、または、参加意向がある高齢者は約5割で、企画・運営として参加意向がある人は約3割であった。前回調査と比較して、どちらも微増傾向がみられた。
- ・ 会やグループに参加していない理由は、「多くの人が集まる場が苦手」、「会・グループ等の情報を知らない」の順に割合が高く、特に前期高齢者ではこれらの回答割合が高かった。
- ・ ボランティアへの参加について、前期高齢者では「多少の報酬があるなら、参加してみたい」の割合が、「報酬がなくても、参加してみたい」よりも高かった。
- ・ 参加してみたいボランティア活動の内容は、「日常生活の手伝い」、「災害時の安否確認」、「地域での高齢者の会食や憩いの場づくり」の順に割合が高かった。
- ・ 住民主体の場への参加意向は、「家から通いやすい場所にある」の割合が最も高かった。

■調査結果の考察

- ・ 全国的にも就労している高齢者が増加するなか、今回の調査においても前期高齢者では半数近くが就労していることがわかった。一方で、加齢とともに足腰の痛みや交通手段などが障壁となり、徐々に外出頻度が低下していく状況が確認された。外出や人との交流などは介護予防に寄与する要素であるため、高齢者ができるだけ長く、社会参加を続けられる環境を作っていく必要がある。
- ・ 在宅生活の継続には医療・介護のみではなく生活支援も重要となる。元気な高齢者が助け合いやボランティア活動に参加することで担い手となり、また、そうした活動が自身の介護予防になるといった好循環を実現していくことが望まれる。そのためには、身近な地域で集まることのできる場づくりや高齢者の意向をふまえた活躍の機会を作っていくことが重要である。
- ・ 就労割合の上昇やスマートフォン等の普及による情報アクセスの向上などにより、暮らしの選択肢は増え、高齢者の生活は多様化している。こうした社会の変化をふまえ、介護予防事業の内容や仕組み等を柔軟に見直し、社会参加の機会が減少する年代へのアプローチを積極的に推進していく必要がある。

認知症施策

○要介護認定者の状況

- ・ 介護が必要になった主な原因としては、「認知症」が39.8%と最も割合が高かった。

○相談・介護

- ・ 認知症に関する相談窓口を知っている人は、一般高齢者の22.5%であり、前回調査と概ね同等であった。
- ・ 介護者が知りたいことについて、「認知症など、精神的な症状に関する知識・対応方法」は33.0%であり、「介護保険制度や利用できるサービス」に次いで2番目に割合が高かった。
- ・ 介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」が39.1%と最も割合が高かった。
- ・ また、介護を断念し、入所を検討する理由としては、「認知症等による問題行動が多くなったとき」が66.7%と最も割合が高かった。特に要介護1・2では、こうした傾向が強くみられた。

○認知症施策

- ・ 市の認知症施策について知っているものがある人は、要介護認定者の約4割であった。また、被介護者が認知症自立度Ⅲ以上の場合、認知症施策の認知度は高くなる傾向がみられた。
- ・ 「認知症家族交流会」、「認知症カフェ」は約2割の認知度である一方で、「認知症初期集中支援チーム」、「認知症高齢者等個人賠償責任保険」、「認知症家族支援プログラム」などは5%前後であった。

■調査結果の考察

- ・ 要介護認定者において、介護が必要となった主な原因は認知症が最も上位であった。認知症の有病率は加齢とともに高まるため、軽度認知障害(MCI)を含め、今後認知症の人が増えることが予測される。そのため、認知機能の低下が疑われる方に対して、病状や生活状況に応じて適切な認知症施策につなげて支援することが必要である。
- ・ また、適切な支援につながるためには、本人や家族が相談窓口や市の施策について把握していることが重要である。そのため、認知症の相談窓口をはじめ、認知症カフェや家族支援の施策などについて、周知・広報を一層推進していくことが求められる。
- ・ さらに、介護者が不安に感じる介護や在宅介護を断念する要因として、認知症への対応は重要なキーワードとしてあがっていることから、介護者の不安・負担について具体的に把握したうえで、その軽減に資する支援を進める必要がある。
- ・ 上記を含め、認知症の人が希望を持って暮らせる地域づくりを進めるためには、市民一人ひとりが認知症について正しく理解し、「自分ごと」として考えることが重要であり、普及・啓発活動を継続的に実施していく必要がある。